



梅雨本番 田植えの季節



1年の半年が今日で終わろうとしています。アッという間の半年、いろいろなことがあり過ぎた事もあるのかもしれませんが、いちばんは歳をとったからということですかね。67歳。

この写真は、送迎の途中に車を停めて撮影したのですが、最近ではなかなか見ることの少なくなった風景ではないでしょうか（もう今では田植えも終わっているでしょうが）。と言っても、私は小さいころに田植えを見た記憶はありません。私の記憶の中

では、上熊本に以前あった予備校に通っていた時に初めて見たように思っています。秋の稲刈りの記憶もそのころしかありません。私の第2の故郷天草では、3月から4月にかけての田植えで、稲刈りがちょうどお盆の頃でした。

この季節になると、天草養護学校に勤務している時に畳4枚分くらいの田んぼを作ってお米づくりをしたことを思い出します。赤土に石灰をまぶして固め、池の底の土を取り出して田んぼに入れ、田植えをして、草取りをして、水を抜いてまた入れて、稲刈りをして餅つきをして食べて。わずか2升ほどのもち米しか収穫できませんでしたが、物を作る大変さを初めて知った活動でした。

だから何なんだってことではないのですが、一つ一つを大切に丁寧に取り組んでいくことを考えさせられたところです。また、育てていると大変なこともあります。収穫の喜びはまた格別です。人生にもいろいろと楽しいことやつらいことやつらいことがあります。それもまた生きてる喜びと思って頑張んなきゃって、自分に言い聞かせているところです。

出来栄えは いかが

右の写真は、つくしグループの作業活動での刺繍作品です。とてもかわいい表情をしています。その時には、何の動物だったのか聞きそびれてしまいました。あとで聞いたら、ディズニーということでした。完成したらもっとかわいらしいものになると思われます。



太い指で細い糸をつまみ、細かい穴に器用に通し、少しずつ縫っているKさんの姿は「きらり」とかがやいていました。他の方も上手にされていました。Nさんはミシンをかけていましたし、Iさんは手が勝手に動いているような…。

極めつけは、3月まで耕運機を動かし、鍬を振った丸木さんです。利用者さんと一緒に針をもって取り組んでいる姿も、「きらり☆」とかがやいていました。

熊本市育成会大会に参加しました

学苑は育成会とは深いつながりがあり、これまでも互いに連携しあって歩んできています。学苑の建て替えを控え、今後の学苑の有り様を考えていく時にも育成会との連携は大事になってくると思っています。

その大会のスローガンにも掲げてありましたが、「繋ぐ（つなぐ）」ということがこれからの学苑を考える時にも必要不可欠ではないかと思っています。この5年がとても大事だと思っています。もうしばらく時間はありますので、みんなでしっかりと考えていきたいと思いました。

利用者さんのステージでの音楽発表、とても楽しく出来ていたと思います。初めて平成学園の方々と一緒に発表しましたがいかがでしたか。職員の変装？衣装？どんなでしたか。7月には町内の盆踊り大会もあります。楽しみにしています。